

デジ漢

デジタル漢字ドリル

くりかえし漢字ドリルの教師用ふろく

書き順アニメーション、フラッシュカードなど、漢字学習に最適な機能が盛りだくさん！



※漢字Vスキル
国語Vドリルにもお付けしています。

デジ計

デジタル計算ドリル

くりかえし計算ドリルの教師用ふろく

授業で使える
コンテンツや
プリントが満載！



※方眼ドリル計算ぐんぐん
算数Vドリル
レイتون教授の算数スキル
にもお付けしています。

デジしゃか

デジタル社会科資料集

社会科資料集の教師用ふろく

資料集掲載の資料やグラフを大きく掲示して、クラス全員で読み取れる！



今回は、
3つのデジタル教材の
活用術を紹介します！



すぐに使える デジタル教材 活用術！

そうだったんだ！

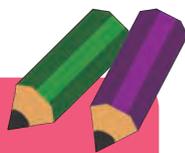
便利！

子どもが
よろこびそう！

他にも
こんなに！



授業だけじゃない！ いろいろ使える！デジ漢



東京都在住
T.N.先生 (40代女性)

新しい漢字を指導する

際、有効な手立てとして子どもたちに「空書き」をさせます。そのとき、デジ漢の書き順アニメーションを使えば、子どもたちが空書きしている様子を先生が確認することができ、大変効果的に指導ができます！さらに、授業以外の活用例もこんなに！

デジ漢

デジタル漢字ドリル

ココが
よかった！

活用術！

ココが
4画目



誤りやすい漢字は・・・

- 1年 右・左
- 2年 長・馬
- 3年 登・齒
- 4年 飛・健
- 5年 興・逆
- 6年 衆・劇 など

アニメーションで見ると
分かりやすい！

1 先生の授業の予習に使える！

日頃正しいと思って書いていたことがありません。書き順は、間違っていたということがあります。書き順は、文字を整えて、速く書くために最も適した順番です。子どもたちの前で誤った書き順で指導したり板書したりすることのないように、正しい書き順を確かめてから授業にのぞみたいものです。そのため、デジ漢の書き順アニメーションはとても有効な教材研究ツールになります。

2 保護者会で使える！

我が子がきちんと漢字を書けるかどうかは、保護者にとって関心の高いことです。しかし、一年間で学習する漢字やその数まで知っている保護者は、ほとんどいません。デジ漢では、学年で学習する漢字一覧を表示することができるので、保護者会で見せることにより、どのような漢字を学習

3 掲示物や配付物作成に使える！

するかを知らせたり、大人でも誤りやすい書き順の漢字をアニメーションで表示して、保護者も一緒に空書きをするなどして、書き順を守ることの大切さを伝えたりするのに、デジ漢は有効です。デジ漢には、「掲示用漢字カード」や、単元ごとの「補充プリント」など、印刷して掲示したり、子どもたちに配付したりすることができる資料が入っています。

「掲示用漢字カード」は、いろいろな情報が見渡せるカラー掲示資料なので、印刷したものを、教室掲示物として活用することができます。

掲示用
漢字カード

書き順、読み方、部首、画数、熟語などが一覧できる。



設定
画面

手軽に楽しみながら 数感覚を養う工夫を！



東京都在住
K.M. 先生 (30代女性)

計算の答えの見当をつけるこ

とには、「計算の見通しができるので手
際よく問題を解決することができる」「大
きな計算間違いを防ぐことができる」とい
った良さがあります。それを子どもに身に付
けさせるには、普段から見当をつけて
考える練習をして、数感覚を養っ
ていくことが大切です。

デジ計

デジタル計算ドリル

ココが
よかった！

活用術！

デジ計でゲームをしよう！

三年生で、「2けた×2けたの計算」の学習後に
行いました。これは朝学習や授業の始めのウォー
ミングアップとして行うのがオススメです。

黒板に大きく「500」と書き、デジ計の【筆算・
分数電卓ツール】で「25×23」の筆算の式を入
力する。

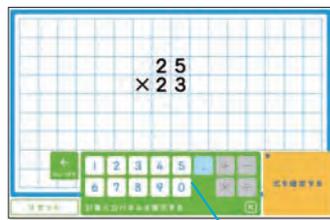
「かけ算クイズです。25×23の答えは、500より
大きくなるでしょうか？ 小さくなるでしょ
うか？」と問い、予想を挙手させます。筆算ですぐ
に答えを出してしまう子どももいるので、「筆算
は使わないで考えましょう！」と声掛けをします。
ここで、子どもたちの実態に応じて予想の理由を
聞きます。

【解答を表示する】ボタンを押して、部分積
と答えを表示。全員で25×23の答えが500より
大きくなることを確認する。

なぜ答えを予想できたかを発表させると、
「500≧25×20で、25×23はかける数が20より大き
いから、答えも500より大きくなります。」

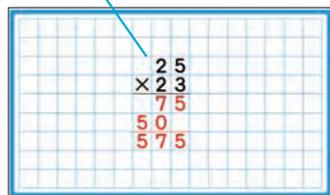
「25×23の筆算の途中で、上から4段目が50になっ
ています。これは、25×20≧500のことです。50に
さらに数をたしているから答えは500より大きくな
ります。」といった意見が出ました。子どもたち
の意見をもとに、「筆算をしなくても、だいたい

の答えの大きさを予想することができ、大きな間
違いを防ぐことができますね。」と見当をつける
ことの良さを学級全体で共有します。



操作パネルで
式を入力

部分積と
答えを
自動表示



次に「25×18」という筆算の式を入力し、同
様に答えが500より大きくなるか小さくなる
かの予想を挙手させる。

前の問題で25×20≧500であることが掴めている
ので、それをもとに答えの大きさを予想すること
ができます。ゲームの中で、答えの見当をつけると
いうことが自然に行われるのです。

このゲームは『整数のわり算』『小数のかけ算・
わり算』などでも同じように行うことができます。
様々な演算でくりかえし行うことで数感覚が養わ
れていきますので、高学年にも有効です。

デジ計では、答えの確認の際、式を入れれば自
動的に部分積と答えが表示でき、短時間でスムー
ズに活動を進めることができるため、子どもたち
の興味・関心を持続することができます。

グラフの段階的な提示で、 事実の捉え方が印象的に！

5年生の「食料生産」の学習では、日本の食料自給率が、“他の国に比べて低い”という子どもにとって意外性の高い事実を具体的・印象的に理解させることが大切です。そこでの驚きや意外性が、その後の学習意欲につながるように、次のような流れで授業を展開しました。



東京都東村山市立秋津小学校
一杉 大介 先生

おにぎり、パン、納豆、天ぷらなど、実際の食品を提示し、国産のものだけだとこれらの食べ物をまかなった場合、食べられる量がどれほど減るかを予想させる。



実際にパンをちぎらせたり、納豆を別の皿に取り分けさせたりしながら予想させると、子どもたちの関心が高まります。



デジタル社会科資料集

「納豆はほとんど食べられなくなっちゃう」「思っていたより日本で作られる量は少ないな」など、驚きの声があがりました。ここで、「食料自給率」という言葉の意味を説明し、次の活動につなげました。

資料「おもな国の食料自給率の変化」のグラフを提示し、日本の食料自給率は他の国と比べて低いことに気づかせる。「デジタルしゃか」を使い、一か国ずつグラフを提示していく。(ポイント！日本を最後に提示)

紙の資料で、一か国ずつグラフを提示するには事前の準備がとて大変ですが、デジタルしゃかを使うと、クリック一つで提示したい国のグラフだけを提示することができます。



日本は、これ！

- 3 児童が予想した国の自給率を提示する。
- 4 最後に、日本のグラフはどのようなかを予想させてから、画面上に日本のグラフを提示する。



- 1 自給率100%のところに線を引き、食料を自分の国だけで生産できるかどうかの境目であることを確認する。
- 2 最も自給率の高いアメリカを最初に提示する。日本は最後のお楽しみに取っておくことを伝え、アメリカの次に自給率の高そうな国を予想させる。

日本のグラフを提示した瞬間、食料自給率の低さに対する驚きの声があがります。この活動を通して子どもたちが抱く「国内の生産だけで足りない分はどうしているのか」「食料自給率はこのままでもいいのか」「食料自給率を上げるためにどうしたらいいのか」という問題意識が、この単元の学習への意欲につながっていくのです。